

ようやくコロナ禍も収束に向かいかけていた 2022 年 2 月 24 日、ロシアによるウクライナ侵攻が起こった。自分の研究上の関心もあって東ヨーロッパの情勢にそれなりにアンテナを張っておいてしかるべきであったにもかかわらず、私は不意打ちのような打撃を受けた。それからは研究室でひたすらウェブ上のニュースを追いかけている状態になって、消耗する日々が続いた。電子顕微鏡でしか確認のできないウイルスよりも、はっきりと目視でき、言葉も交わすことのできる人間同士のほうがコミュニケーションを取ることが難しいという事態に直面して、私はあらためてショックを受けたのである。そして、2023 年 10 月 7 日には、ハマスの奇襲攻撃にたいしてイスラエルによる激しい報復攻撃がはじまった。いずれの戦闘においても国連はまったく機能せず、停戦にいたる見通しは立たないままである。

とくにガザ地区の状況は深刻という事態を遥かに超えている。ガザ地区の北部は瓦礫の山と化し、中部、南部においてもイスラエルは空爆と地上戦を展開している。すでにガザ地区の死者は 3 万 5000 人を超え、その多くに子ども（14 歳以下）と女性がふくまれているという。私はアドルノ、ベンヤミンなど 20 世紀のユダヤ系の思想家を研究してきて、その関係でホロコーストにもそれなりの関心を抱いてきたが、いまではガザ地区の全体がワルシャワ・ゲットーのような状態に陥っているとしかいいようがない。いや、絶滅収容所への移送列車の内部になぞらえるほうが正確かもしれない。すでにゲットーの生活で疲弊しきっていたひとびとは、貨物列車にすし詰めになされ、絶滅収容所にたどりついたときには、3 分の 1 が貨車のなかで死亡していた場合もあったのだ。さながら、絶滅収容所に向けてひた走っている貨物列車の内部と化しているガザ地区の全体――。

イスラエルを批判することは反ユダヤ主義である、というような議論がまかり通るなかでは、こういう語り方はホロコーストの犠牲者を傷つけるものと評されるかもしれない。しかし、イスラエルという国家にたいする批判と反ユダヤ主義がまったく次元の異なるものであることは、だれにも明らかなことである。実際、イスラエルの内外にイスラエルに批判的なユダヤ人はいくらかでも存在している。イスラエルにたいする批判は反ユダヤ主義であるという語りそれ自体こそが、ホロコーストの犠牲者を傷つけるものにほかならない。これはけっして水掛け論で終わらせてはならない。イスラエル建国による「ナクバ」によってパレスチナの故郷を追われた身であるエドワード・サイドはかつて、自分こそ「最後のユダヤ人知識人」であり、「ユダヤ系パレスチナ人」である、としたたかな逆説をこめて語った。私たちにいま必要なのはこのサイドのような批評性である。

同時に、瓦礫の山と化したガザ地区の映像は、私には 76 年前の韓国、済州島の光景を髣髴とさせるところがある。1948 年 4 月 3 日、南北への分断を間近に控えた状況で、それを阻止するために済州島で蜂起がなされ、米軍を背景にこれに徹底的な弾圧がくわえられた。

現在確認されているだけで死者は3万人を超えていたとされる、済州島四・三事件である。当時の済州島の人口は20数万人といわれるなかでのことである。ことほどさように、蜂起にたいする報復弾圧は熾烈極まりないのだ。私の年長の知人で、詩人である金時鐘さんは、その蜂起にいちばん若い活動家のひとりとして関わり、1年2ヶ月後の1949年6月6日、命からがら日本に渡った。韓国では「共産暴動」として長らくタブー視されてきたその事件について、金時鐘さんが公的に語りはじめたのはじつに50年後の1998年からである。

四・三事件が「共産暴動」としてタブー視されているあいだ、金時鐘さんは秘かに事件のことを詩に書きとめてはいたが、公然と語ることはできなかった。その「大義」を胸に秘め続けていたのである。しかし、四・三事件の「大義」が政府によっても認められたいまや、それを詩のかたちで公然と謳ったり、講演で得々と語ったりすることができるか、という問題がある。済州島での四・三事件をめぐるシンポジウムで、生き残っているほぼ最後の証言者として発言をもとめられた金時鐘さんは、済州島の浜辺に打ち上げられた死者たちの姿を思い起こし「死者たちはほんとうに臭いんだ」と語って会場を凍りつかせた。四・三事件の死者たちが神聖視されることによって四・三事件の正当性が全面的に認められるかの事態に、金時鐘さんはやはり違和感を抱いていたのだと思う。天の邪鬼といえど天の邪鬼なのだが、これはそんな気質の問題で済むことではない。

今回のハマス主導による奇襲攻撃にくわわったひとびとも、金時鐘さんのような複雑な内面を抱えてゆくことになるだろう。私たちはせめてそこまでは想像力を働かせながら、ガザ地区に思いを馳せなければならない。